



ふれあいの丘 天文館だより



★夏の風物詩「ペルセウス座流星群」

普段、流れ星って、いつ、どこに流れるかわからないですね。ところがちょうどお盆の頃、8月12日の夜から13日の朝にかけてピークを迎える「ペルセウス座流星群」があります。1月の「しぶんぎ座流星群」、12月の「ふたご座流星群」と合わせて「三大流星群」と呼ばれています。

流星が飛び出してくるように見える中心点を「放射点」と呼び、その「放射点」がペルセウス座にあることから「ペルセウス座流星群」と呼ばれています。



●ペルセウス座はどの方向にあるの？ 見つけ方は？

ペルセウス座は、アルファベットのWやMの星の並びで有名な「カシオペア座」の少し下にあり、夜9時ごろ、「北東」の空低く姿を見せ昇ってきます。

●いつ見れるの、たくさん流れるのはいつ？

8月12日前後をはさんで2～3夜は、流星が活発に流れる様子を観察するチャンスです。流星が見え始める時間帯は、放射点が高くなる午後9時～10時頃になります。本格的に流れるのは0時を回ってからで、明け方まで放射点は高くなり続け、空が白み始める午前4時頃まで観察することができます。

●流星の正体は、流星群とはなに？

流星は、宇宙空間にある直径1ミリメートルから数センチメートル程度のチリの粒が、高速で地球の大気に飛び込んできて、大気と激しく摩擦を起こし高温となって光って見える現象です。流星の元となるチリをまき散らすのは、彗星（ほうき星）です。太陽の回りを巡る周期彗星の軌道上には、長年にわたって放出されたチリが集まっていて、チリの帯ができています。地球は毎年ほぼ同じ日時にそのチリと交差するので短期間にたくさんの流星を見ることができます。これが流星群です。

天文館では、8月12日（日）午後8時から11時まで流星観望会を予定しています。詳しくは、広報おたわら7月15日号、またはホームページをご覧ください。

■問い合わせ

ふれあいの丘天文館 ☎(28)3254
<http://www.fureai-tenmonkan.jp/>

ふれあいの丘 自然観察館だより

自然観察館では「世界のクワガタ・カブト展」を開催しています。生体展示として珍しい世界のカブト・クワガタを展示しています。生きた姿が24種類も見るができるのは、この時期だけです。さらに、日本や世界のクワガタ・カブトの標本（約70箱）も同時に展示しています。ぜひご来館いただき、クワガタ・カブトの昆虫ワールドをお楽しみください。展示中の生体展示をいくつか紹介します。

●世界一美しい「ニジイロクワガタ」

オーストラリア北東部やニューギニアに生息し、七色に輝く世界一美しいクワガタで、その金属光沢は日本の「タマムシ」のようです。成虫の寿命は1年以上と長く、丈夫で比較的飼育が簡単なため、子どもたちに人気のあるクワガタですが、日本に最初に輸入された頃は、とても高価だったそうです。現在オーストラリアでは保護昆虫となっているため、現地での採取は不可能です。



●アフリカの「タランドゥスオオツヤクワガタ」

90ミリを超えるアフリカ最大のクワガタ。エナメルのような黒光り、大アゴは「く」の字に湾曲し、迫力・重量感があります。長い間飼育が難しいとされてきましたが、飼育法の改善で比較的容易になりました。オスは頭部と胸部をすりあわせ「ギュー」という威嚇音を出すことで知られています。



●子どもたちに大人気の「クワガタ・カブトふれあいコーナー」

今年も子どもたちが大好きなクワガタやカブトと自由に遊べるコーナーを開設（～8月31日）しています。いつの時代も同じで、子どもたちは時間のたつのも忘れて遊んでいます。どうぞ夏休みの思い出づくりにご活用ください。



■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 ☎(28)3131
<http://www.fureaino-oka.com/shizen/>